

## コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年8月15日

BA.4、BA.5とは何か？ : 「ケンタウロス株」にも触れて

### 【松崎雑感】

「ケンタウロス」はWHOの命名でなく、ページビューを増やして儲けたいメディアが、この変異株が「人外の怖ろしい変異株、半獣人ケンタウロスだ」と騒いで付けたあだ名です。正式にはBA.2.75でオミクロン株の派生株です。BA.4/5があまり流行していない「ラッキー」な地域では流行するおそれがあるようですが、日本はすでに「アンラッキー」地域になっています。ケンタウロスはBA.4/5とほとんど同じ遺伝子的特徴を持っているため、すでに国としての集団免疫ができていますから。

## BA.4、BA.5とは何か？：「ケンタウロス株」にも触れて

Mahase E. **Covid-19: What we know about the BA.4 and BA.5 omicron variants.** *BMJ.* 2022;378:o1969. Published 2022 Aug 9.  
doi:10.1136/bmj.o1969

二つのオミクロン派生株BA.4とBA.5が世界中に広がっている。さて、

この派生株はいつどこで発生したのか？

2022年の1月にBA.4、2月にBA.5が相次いで南アフリカで発見された[1]。いずれもBA.2から派生し、感染力を高める変異を備えている[2]。

BA.4とBA.5との間にどのような違いがあるのか？

WHOによれば、新型コロナ新規感染者の半分以上はBA.5だが、BA.4は1割程度である[3]。両者にほとんど違いがないのにBA.4よりもBA.5の方が多く広がっている理由は謎である。インペリアルカレッジ・ロンドンのウイルス学者トマス・ピーコック氏は「スパイク蛋白はほとんど同じだ。違うとすればスパイク蛋白以外の部分だろう。しかしそれが何なのかは全くわからない」と語っている。

## BA.5の流行によって、入院患者や死亡者は増えているのか？

イギリスでは、新型コロナ入院患者数は5月末で550名/日だったが、7月の第二週で2200名/日以上となった。死亡診断書ベースの死者数は6月の30名/日から7月中旬の134名/日に増加した[4]。

アメリカではCDCによれば、新規感染者の78%がBA.5であり、入院者も死亡者も急増している。週当りの入院数は7月第2週の5902名から第3週の6180名と4.7%増加したが、その後減少に転じている[5]。

中国は、オミクロン派生株の流行に対して、ロックダウンの強化で対応している[6]。

## ワクチンはBA.5に効くのか？

FDAは、武漢株を基礎に作られた現在の新型コロナワクチンが、オミクロン株に対しては有効率が低くなっていると警告した。

6月末の会合後にFDAは、オミクロン株向けのワクチンをブースターとして8月に投与を開始する方針が諮問委員会で支持されたと発表した。

その中でFDAは、「ワクチン製造企業（複数）からオミクロンBA.1派生株に対応した成分を含む改良ワクチンに関する臨床トライアルデータがすでに報告されている。FDAは、ワクチン企業に対して、これらのデータを、オミクロンBA4/5派生株に対応する成分の改良ワクチンの認可申請に先んじて提出するようアドバイスした」と述べている。

## BA.2.75とは何か？

この派生株もBA4/5と同様にBA.2から派生した。5月にインドで発見され[8]、その後、免疫すり抜け力が高いのではないかと報道が続き不安視された。

しかし、検出された国で流行する傾向は見られなかった。

カリフォルニアのスクリプス研究所分子医学教授エリック・トポル氏は「多くの国でBA.2.75が発見されているが、流行した国は報告されていない。ただし、BA.5の流行していなかったインドの2地域では流行が見られる。したがって、BA.5を押しつけて流行する可能性はないと考えられる。インドでは問題だろうが、ほかの国に広がる気づかいはないだろう」と述べている。

## なぜBA.2.75はケンタウロスと呼ばれているのか？

軽症であるという印象が「オミクロン株」に付きまとっているために、感染力や重症化リスクが高いと喧伝されたBA.2.75を「オミクロン」に含めるのはおかしいのではないかと多くのメディアが考え、新たな懸念変異株「ケンタウロスだ！」とあだ名をつけて報道したことが始まりである。

## 感染防止対策はまだ続ける必要があるのか？

リーズ大学医学部准教授ステファン・グリフィン氏はイエスと述べた。

ただし、ロックダウンではなく、マスク着用などの対策を継続する必要があるという。

彼は「イギリスの再生産指数R（1人の感染者から二次感染する人数）は、1を少し超えたあたりにある。もし3密対策やマスク着用を緩和すると、この数字は1.3～1.4となりかねない。Rを減らすのは大変だが、増やすことはあつという間にできる」と語っている。

トポル氏は「BA.5が最後の変異株であるわけがない。今後も新たな変異株への対応が続くことは必定だ。これが変異株とのたたかひの終わりでなかった場合どうする？これはゆで蛙と同じだ。BA.5に対してそれほど怖れることはない、と安心しているうちに実は事態は少しずつ悪くなっているのだから」と説明した。

ユニバシティカレッジ・ロンドンのオペレーショナルリサーチ教授クリスチーナ・パゲル氏は、「被害の蓄積」に大きな懸念を抱いている。「これで今年3回目の流行だ。流行毎に、以前ほどではないが犠牲者が出る。わずかな犠牲と無視することはできない。（イギリスでは）この1年で5万人の命が失われているのだから」